

## 新入生オリエンテーション 講話

2017/04/06

9:10～9:40 山本 挨拶・講話

対象は、医学科1年次・医学科2年次編入・看護学科・看護学科3年次編入

みなさん、おはようございます。私は、教育・産学連携担当理事・副学長の山本清二です。よろしくお願いいたします。

まず初めに、新入生のみなさん、入学おめでとうございます。  
そして、ようこそ浜松医大へお越しくださいました。ありがとうございます。

今年は例年とは違って、外は桜が満開で…とは行きませんが、それでも、ここ2・3日、皆さんの入学をお祝いするかのようになり、急に桜の花がきれいに咲いてきました。いい季節になってきましたね。みなさんの喜びを表しているような気がします。

さて、今日はオリエンテーションのこの時間をお借りして、少しお話をさせていただきます。

今日は、  
浜松医大と浜松についての話を少し、  
医学におけるコミュニケーションについて、  
浜松医大で勉強したことを活かした将来について  
少しお話したいと思います。

### 浜松医大と浜松について

私は浜松医大の一期生。昭和49年入学、55年卒業です。おそらくみなさんのご両親の年代よりさらに上だろうと思います。

浜松医大は、昭和49年、1974年に開設。当時、いわゆる「無医大県解消」の政策に基づいて、最初のころにできた国立の医科大学です。

医大を浜松に置くか、静岡に置くか、県を二つに分けて誘致合戦があったと聞いています。

結局浜松になったわけですが、浜松にはもともと医学校があったということ、みなさんご存知でしょうか？

浜松医大の開学からさかのぼること「ちょうど100年」1874年に浜松には医学校が開設されています。「県立浜松病院附属医学教場」といまして、県立

病院に設置された医学校でありました。その後は、浜松県の廃止を経て、残念ながらそれから15年ほどで、廃校になってしまいました。

その間、「七科訳説」という日本最初の西洋医学書が浜松医学校から出版されています。これは、ペンシルバニア大学が刊行した「医学大鑑」の翻訳を手がけ浜松で出版したもの。内容は、解剖・生理学・化学・薬物・内科・外科・産科の七科に及ぶことからこの書名がつけました。これは、浜松市の中央図書館と本学の図書館にあります。

浜松城のそばに「元城小学校」という、明治6年開校の非常に歴史のある小学校があります。この小学校にあった外国製のオルガンが壊れ、修理できる人が誰もいない、さて困った、という時に、修理できるだろうということで白羽の矢が立ったのが、この浜松医学校で医療機器の修理工であったわけです。

当時誰も修理することができなかった元城小学にあった「オルガン」の修理を依頼されて、オルガンに興味を持った人が、国産のオルガンを作るようになったと聞いています。

この人が、「山葉寅楠さん」で、楽器のヤマハの創設することになるわけです。これはまさに「逆の医工連携（医学の知識と技術を持った人が工学に行く）」ですね。

このような歴史ある医学校開設から、ちょうど100年後に浜松医大ができたというのは偶然ではないような気がしますし、当時「何とか浜松へ医科大学を」という強い思いがあったことと無関係ではないと思います。

みなさんは、1874年にできた浜松医学校の魂を受け継いでいる伝統ある地「浜松」で「医学を学ぶんだ」という誇りを持ってください。

## 医学におけるコミュニケーションについて

さて、医師・看護師をはじめとする医療従事者に、最も必要な能力は何だと思えますか？

それは、やはりコミュニケーションがいかにかうまくできるかということにつきます。

医師・看護師と患者さんとのコミュニケーション、医師・看護師と患者さんの家族とのコミュニケーション、医療従事者同士のコミュニケーション、医療というのは、すべてコミュニケーションをベースに成り立っています。

コミュニケーションが苦手、自分はいかにうまく話せない、そう思っている人もいます。それは、心配いりません。これは一種の技術ですから、家族と、友達と、先輩と、教員と、今からでも遅くないですから、他人と意思の疎通をはかること、人の考えを理解すること、自分の考えを人に伝えること、そしてそのために話をするこ

とに興味を持ってください。興味を持って努力してください。それがコミュニケーションの能力を磨くもっとも良い方法であり、唯一の方法です。

せつかく今日は皆さんが私の話を聞いてくださっているので、コミュニケーションを円滑にするにはどうしたら良いか、これをお伝えします。

みなさんは、アイスウォーミングという言葉を知っていますか？ 以前はアイスブレーキングと呼んでいたものですが、文字通り氷を温めてとかすという意味ですが、

私は、氷を通して目の前にいる人を見ると、曇って見えなかったり、歪んで見えたりするので、それをうまく、しかも少しずつとかして、自分の眼で目の前の人をしっかりと見るための作業だと勝手に理解しています。

アイスウォーミングがうまく行けばしめたものです。さあ、そのもっとも基本的な方法は何でしょう？

それは「挨拶」をすることです。名前を知らない相手でも「こんにちは！」「おはようございます！」って声掛けできるでしょう。毎日顔を合わせる人にでも「おはよう」って言えるでしょう。これで確実に氷は解け始めます。

私は、脳外科の医師で、今も関連病院で外来をやっていますが、「はい、こんにちは」「どうぞおかけください」「〇〇さんですね」「脳外科の山本です。よろしくお願ひします」これだけで、患者さんの顔つきは変わりますよ。みんな不安を持って、来たくないのに辛いところがあるから病院に来るわけです。楽しいわけではないですね。自然に挨拶することで、話を聞いてくれるんだという気持ちが生まれると思います。

最後に、コミュニケーション上級編。どうしたら人の話をうまく聞けるか。

それはその人の話に興味を持つこと、それがその人に興味を持つことにつながります。そうすれば、うまくコミュニケーションが取れます。

そのためには、幅広くいろんなことに興味を持つことです。いろいろなことを体験することです。そしていろんな人と話をするということです。この努力を怠らなければ、みなさんはきっと深みのあるいいお医者さん、看護師さんになるはずですよ。

### **浜松医大で勉強したことを活かした将来を選択するのは君たち**

浜松医大は単科の医科大学です。ここに来ると将来は医師か看護師になるしかないよ、みなさん思っておられないか？

そうではありません。医師・看護師、医療人に必要な教育を行うことは間違いありませんが、卒業後はいろんな道があることを忘れないでください。

医師になって、患者さんを診ているうちに、自分が興味を持ったこと、患者さんのために何とかしたいと思ったこと、これを解決するために研究に入って、医師しかできない医学研究をすることもできます。iPS細胞でノーベル賞を受賞され

た山中先生も整形外科の医師であります。

保健所の所長になるにも医師免許が必要です。保健師さんとして企業や県の行政で活躍する人もたくさんいます。厚生労働省の医政局に努めて医療行政をやることもできます。

まったく領域が違うように思えても、文学者になる人、漫画家にある人、映画監督になる人、政界に進出する人、世の中には医学部出身の人がたくさん活躍しています。一見領域が違うように見えても、医学は科学であると同時に「人間学」だからです。

そうです。何を言いたいかというと、入学してから皆さん無限の可能性を感じて学生生活を送って下さい。将来の自分の夢を描きながら、自分を高める時間を大切にしてください。そして、浜松から将来に向かって大きく羽ばたいて下さい。

### そして、最後に

昨今、医師にあるまじき行為、医療人としてあってはならない行為が社会問題になっています。社会が医療人を見る目が厳しくなっています。医学生・看護学生を見る目も当然厳しくなっています。学生の間だからいいだろう、これで許してもらえないことはありません。絶対に許されません。

安易な気持ちで、過ちを犯すと、将来の自分はなくなることを良く肝に銘じて、学生生活を送って下さい。

私はみなさんが成長して、立派な医療人として羽ばたいていくのを、とっても楽しみにしています。そんな人たちにお会いできたことに感謝して、私のお話を終わりにします。

ご清聴ありがとうございました。